

みなとみらい産官学ラウンドテーブル第15回公開セミナー

平成24年3月7日(水)、みなとみらい産官学ラウンドテーブル第15回公開セミナーが、横浜国立大学成長戦略研究センター主催により、横浜ランドマークタワーにおいて開催されました。今回は、当センターと対外経済貿易大学保険学院が学術交流協定を締結したことを記念し、同学院の王穂院長をお招きして『中国保険業界の現状と将来』というタイトルで御講演をいただきました。

講演は、現在の中国が建国される1949年以前の保険の歴史の概略を振り返ることから始まり、続いて、1949年以降の保険産業の発展と現状、最後に、中国の経済発展を踏まえたうえでの保険産業の今後の在り方について示唆されるなど、中国における保険業界の全体像を、端的に分かりやすく話していただきました。なお、講演は、横浜国立大学大学院出身で、現在は王穂院長と同じ学院で副教授をされている劉慶彬さんの日本語による通訳を介して行われました。講演の後、フロアを交えた質疑応答が行われ、90分という時間が短く感じられるセミナーとなりました。

中国における保険の歴史は1805年にイギリスの保険会社が活動を開始したことに始まります。中国系の保険会社が最初に設立されたのは1865年であり、これは上海で営業が開始されました。その後、清朝末期に西欧化の推進に努めた唐廷枢が1875年に保険会社を設立すると、他にも保険会社の設立が相次ぎました。

こうして順調な発展を見せるかにみえた保険産業でしたが、文化大革命によりその発展は中断を余儀なくされました。しかし、1979年に米中の国交が正常化されると、これ以降、中国保険産業は「国際化」というキーワードで彩られる発展の道を歩むこととなります。2001年にはWTOにも加盟し、外資系の中国保険市場への参入が本格化することとなりました。実際、2000年代の保険料収入は、毎年ほぼ20%増の伸びを示しました。ちなみに、近年では自動車保険が約7割を占めています。



ただし、問題がないわけではありません。世界レベルで見ると、中国の保険産業は6番手であり、トップのアメリカが約30%の市場シェアを有しているのに対し、中国は3%にすぎません(2008年時点)。また、中国国内の保険産業の成長に比して、保険業務に精通する優秀な人材の確保も十分とは言えません。しかし、このような状況は、視点をかえれば、中国保険産業が潜在力をもつ市場であ



ることを意味します。

中国の保険産業も国際化の流れを受けて、外資系企業が国内市場に参入するとともに、国内でも「私営化」をキーワードとした発展がみえています。さらなる市場の拡大のために、また、社会サービスの担い手として保険産業がその一翼を担うために必要なこととして、国内市場に適した保険商品の開発や変化への対応、保険よりも貯蓄を好む国民が多いという実態を踏まえたうえでの保険の普及宣伝活動、保険産業におけるサービスやスキルの向上、などが王先生から提示され、中国保険産業の将来性が示唆されるとともに、講演が締めくくられました。

<参加者へのアンケートから抜粋>

(1) セミナーの内容について

- ・ 中国の成長性や将来性に関する貴重なご意見を伺うことができました。
- ・ 中国中の課題が述べられていたので。
- ・ 分かりやすく説明頂いてありがとうございました。
- ・ 今後の成長分野、テーマは非常に参考になりました。
- ・ わかりやすい説明で興味深い内容でした。

(2) 今後のセミナーのテーマについて

- ・ 中国の民間保険会社、特に地方に本社があり、新しく設立した会社がかかえている課題や問題について情報をお持ちでしたら教えて頂きたい。
- ・ 世界の流通（インターネットマーケット）
- ・ 中国も含むアジア新興国における保険市場、規制の詳細など。
- ・ アジア保険市場。